

ほほえみ学級第6学年

社会科学学習指導案

日時 平成27年10月21日

場所 ほほえみ教室

授業者 若原 三千代

1. 単元名 「長く続いた戦争と人々の暮らし」 (8時間)

2. 指導について

(1) 単元について

本単元「長く続いた戦争と人々の暮らし」では、15年続いた戦争は、国民生活に大きな影響を及ぼし、国民や近隣諸国に大きな被害をもたらしたことを学習する。

日本は、朝鮮の植民地化、満州国建設、中国・東南アジアへの武力進出を行い、連合国との太平洋戦争へと進み、多くの兵士の死と多くの民族への被害を与えた。国内でも、食糧難、物不足により、国民の生活は苦しくつらいものであり、空襲、沖縄戦、広島・長崎の原爆投下により多くの市民が犠牲となった。「長くつらい戦争」後は、日本国民だけでなく世界中の多くの人が、平和な世界の実現を強く願っている。

そのことを理解するために、身近な家族や地域の方から太平洋戦争時の体験を聞き取り、「岐阜空襲、家族の出征、戦争当時の中小学校の生活」に焦点を絞って考え、戦争と平和について自分なりの考えをもつことができるよう支援していく。

(2) 児童の実態

ほほえみ学級は2年男子1名と6年女子2名である。社会科は、6年生児童の1名と一対一で学習しており、資料の読み取りの視点、読み取った内容の表現方法について児童の実態に合わせて工夫してきた。本児は、絵や図を描くことを好むので、資料から読み取ったことや重要語句についての理解を絵や図を使って表現せたり、自分の言葉で吹き出しにまとめさせたりすることで、学習の効果をあげてきた。

本単元では、「資料のどこを読み取ると課題に迫ることができるか。」という読み取りの観点を教えたり、特に着目させたい部分を強調したりするなど、資料の与え方を工夫する。また、本児の身近な人物である曾祖母や祖母に太平洋戦争についてインタビューする学習を位置づけながら、戦時中の生活の様子や苦労をより身近に感じ取り、自分なりの戦争・平和についての考えをもつことができるようにする。

3. 研究主題との関わり

研究内容(1)のAに関わって

本単元は、曾祖母(88歳)の体験を幼い頃から聞かされてきた祖母に、太平洋戦争の頃の生活についてインタビューする活動や地域の方から戦争当時の中小学校の生活体験を聞き取るなど、児童の身近な出来事として戦争をとらえられるように、教材を開発した。身近な人物の体験を聞き取ることで、より豊かに想像力を膨らませ、より強く共感することができると考える。

研究内容(1)のイに関わって

本時の導入では、地域の方の「運動場がサツマイモ畑に変わってしまった」というお話から、当時の小学生(本児と同年代の子ども)は、どんな生活をしていたのかを知ろうとする思いを高め、「戦争中、子どもたちは、どんな生活をしていたのだろう。」という課題につなげる。

研究内容(2)のAに関わって

本単元の学習では、資料や地図を使って「太平洋戦争の原因と広がり」を理解する時間、身近な曾祖母や祖母へのインタビューをする時間、そのインタビューや地域の方の話から、「空襲の恐ろしさ」「兄弟が出征したつらさ」「当時の子どもの生活」などについて自分の考えをもつ時間、広島と長崎の原爆について知り、「平和の大切さについて」考える時間と、役割を明確にして単元計画を作成した。

研究内容(2)のイに関わって

本時の終末では、まとめを書く十分な時間を確保する。また、本時のまとめや考えに共感したり、付け加えたりするキャラクターを設定する。キャラクターの考えと比べることで、自分の考えは、課題に対するまとめになっているか、本時のキーワードを用いて書いているかを見届ける。そのため、キャラクターが登場するワークシートを工夫した。

研究内容(3)のAに関わって

追究活動では、当時の小学生の一日の生活と自分の生活を比較させる資料を用意する。教師と児童のやりとりの中で、学習内容、給食時間、放課後の過ごし方に視点を当て考えさせ、勉強はほとんどせず農作業をしていたことやウサギの世話をするために家でもえさを探していたことなど戦争一色の生活をしてきたことに気付かせる。

研究内容(3)のイに関わって

追究活動の後半では、戦争中に食べていた麦ご飯を提示し、実際に食べて今の食事との量、味の違いを体感させる。特に、疎開児童は弁当を持ってくることができなかったという空腹感を想像させる。

4. 単元指導計画 (全8時間)

時	ねらい	学 習 活 動	【評価規準】(評価方法)
1	日本が不況の打開や満州での利権を守るために、中国各地に戦争を広げ、大きな被害を与えたことが分かる。	中国での戦争が中国の人たちにどんな大きな被害を与えたかつかむ。 日本が中国で行った戦争は、どんな戦争だったのだろう。 満州への移住、世界恐慌、日本軍の侵攻の3点から中国での戦争の原因を理解する。 不景気でお金が儲からない、満州を利用していろいろな資源を手に入れたと考え、中国中に戦争を広げ、中国の人々に多くの被害を与えた。	【社会的事象への関心・意欲・態度】 地図や年表などの資料を活用して、中国との戦争がどのような戦争だったか読み取っている。(発言・吹き出し)
2	戦争が、どんどん世界に広がっていったことが分かる。	中国の戦争から東南アジア全体に広がっていったことをつかむ。 戦争はどんな風に世界中に広がったのだろう。 アメリカと日本の資源や生産力のちがいを知る。 日本は中国から東南アジアを攻撃し、資源を手に入れようとした。 アメリカとも対立してどんどん広がっていった。	【社会的事象についての知識・理解】 東南アジアへ戦争が拡大したことを理解している。(発言・吹き出し)
3	ひいおばあさんに太平洋戦争中の生活についてインタビューする内容を決めることができる。	国民はどんな生活をしていたのか調べる意欲をもつ。 第二次世界大戦中、ひいおばあさんはどんな生活をしていたか知るためのインタビューを考えよう。 インタビュー内容を決め、アンケート用紙を作る。 ・大野町にも空襲はあったか。・家族や親戚で戦争に行った人はいるか。・どんな食事をしていたか。・どんな仕事をしていたか。・戦争で一番いやだったことは何か。	【社会的事象についての知識・理解】 前時に学習したこと・今までに知っていることをもとに、インタビュー内容を決めている。(インタビュー用紙)
4	ひいおばあさんにインタビューをして、太平洋戦争中の生活について知ることができる。	ひいおばあさんにインタビューをして何を知りたいのかを考え、課題化する。 ひいおばあさんが体験した太平洋戦争についてインタビューをして、戦争中の生活について知ろう。 ひいおばあさんにインタビューをする。 ・岐阜の空襲が見えた。白い壁が赤くなるほどだった。 ・ひいおばあちゃんの二人のお兄さんが戦争に行った。歌を歌ったり旗を振ったりして見送った。 ・白いごはんは食べられなくて、麦ご飯だった。友だちは、サツマイモや大根を食べていた。 ・畑がたくさんあったので、野菜をいっぱい作っていたが、ほとんど軍隊に出した。 ・戦争で一番いやだったことは、たくさんの人が死んでしまったこと。飛行機から撃たれそうになって死にそうになった。	【観察・資料活用の技能】 インタビューを通して、ひいおばあさんが経験した戦争を聞き取り、メモを取ったり質問したりしている。(インタビュー用紙・質問)
5	インタビューを参考にして「日中戦争・太平洋戦争」と「戦争の頃のひいおばあちゃん」について年表を作りながら、空襲の激しさ、たくさんの戦死者が出たことを知ることができる。	ひいおばあさんの年表を作る意欲をもつ。 戦争のころのひいおばあさんの生活年表をつくろう。 ひいおばあさんの年表を作りながら、空襲の激しさと恐怖、兄弟の出征とたくさんの戦死者の存在を知る。 ・お兄さんたちの出征・岐阜の空襲・大垣の空襲・ひいおばあさんの生活を書き加える。 ・空襲の激しさを知る。(家のそばに防空壕・防空壕で焼死・バケツリレー・電気に布・川に浮かぶ死体・日本中に空襲。) ・たくさんの戦死者が出たことを知る。(戦死者の人数・沖縄戦) ↓ ・戦争は多くの兵隊を殺し、空襲で、たくさんの家を焼き、たくさんの人が死んだ。そんな戦争の中をひいおばあさんは、生き抜いた。	【観察・資料活用の技能】 インタビューをもとに、日中戦争・太平洋戦争の流れとひいおばあさんの戦争体験を年表に書き表し、流れをつかんでいる。(二つの年表)

6 本時	太平洋戦争中、中小学校の3年生だった長沼さんの体験から、当時の子どもたちの生活を知り、大人も子どもも苦しくつらい生活を送っていたことに気付く、戦争について考えることができる。	「運動場がサツマイモ畑に変わってしまった」長沼さんの体験から、課題を作る。 戦争中、子どもたちは、どんな生活をしていたのだろう。 中小学校3年生の一日の生活スケジュールと麦飯の弁当から、戦争中は、大人も子どもも戦争一色でつらい生活を送っていたことをつかむ。 小学生は勉強はほとんどしないで、毎日働いていた。軍隊に送るために運動場でサツマイモを育て、水やりをしたり、遠い畑に肥料を運んだりして働いた。疎開している子どもたちは、食べ物がなくて、いつもおなかをすかせていた。つらくて苦しかっただろうな。	【社会的な思考・判断・表現】 地域の方の体験を通して、太平洋戦争中の子どもたちの生活について考えている。(発言・吹き出し)
7	広島と長崎の原爆投下で多くの国民が犠牲になり、日本が戦争をやめたことが分かる。	広島と長崎の原爆投下後の写真から課題を作る。 どうやって日本は、戦争をやめたのだろう。 亡くなった人数と被爆者の写真から、原爆の被害の大きさと命の尊さをつかむ。 広島と長崎に原子爆弾が落とされて、たくさんの人が亡くなった。だから、日本は、戦争をやめた。原爆症で70年たった今でも苦しんでいる人がたくさんいる。	【社会的な事象についての知識・理解】 原爆が二つも落とされて、たくさんの人が亡くなり、死ななかったが原爆症で、70年たった今でも苦しんでいる人がいることに気付いている。(発言・吹き出し)
8	第二次世界大戦の学習を通して、分かったことや自分の考えを新聞にまとめることができる。	学習してきたことをどのようにして家族や友だちに伝えようか考える。 ・絵や吹き出しをかけた新聞を作りたい。 ・ひいおばあさんや家族に読んでもらい、感想を聞きたい。 ・空襲や原爆のこと、食べ物がなくておなかがすいたこと、家族が戦争に行ったらすごく心配したことを書きたい。 ・私は、戦争はしてはいけないと思う。 自分の考えを新聞にまとめる。 ひいおばあさんにインタビューしたことや資料から分かったことや思ったことを絵や図や吹き出しで新聞に書くことができた。岐阜空襲や原爆のこと、疎開していた子は、食べ物がなくてとてもおなかがすいていたこと、家族が戦争に行ったらすごく心配したことが書けた。私は、戦争はしてはいけないと思った。	【社会的な思考・判断・表現】 第二次世界大戦の学習を通して、分かったことや自分の考えを新聞にまとめている。(新聞の内容・家族の感想)

6. 本時の目標

太平洋戦争中、中小学校の3年生だった長沼さんの体験から、当時の子どもたちの生活を知り、大人だけでなく子どもたちも大変苦しくつらい生活を送っていたことに気づき、戦争について考えることができる。

7. 本時の展開

段階	ねらい	主な学習活動	指導・援助 ・資料	【評価規準】 キーワード
つかむ	本時の課題をつかむことができる。	1. 導入資料から、本時の課題を設定する。 ・運動場がサツマイモ畑に変わってしまったら自由に遊べない。つまらない。 ・このサツマイモは、誰が作っているのだろう。私のような小学生が作っていたのかな。 戦争中、子どもたちは、どんな生活をしていたのだろう。	・「運動場がサツマイモ畑に変わってしまった」体験から、課題を作る。 ・運動場のサツマイモを誰が、何のために作っていたのか考える。	
調べる	資料から事実をつかみ、課題に対する自分の考えをもち、交流することができる。	2. 予想を交流する。 ・運動場の土は固いので、畑に作り変えるのは大変だっただろう。石がいっぱい出ただろう。子どもも手伝ったのだろう。 ・お父さんやお兄さんが戦争に行ってしまったので、お母さんやおじいさんやおばあさんや家族を助けて、働いていたのだろう。 3. 資料を読み取り、考えを交流する。 資料1 ・勉強はあまりしていない。学校で、サツマイモ作りや水やりの仕事をしている。帰ってからも、学校で飼育していた1000匹のウサギのえさの草集めをしていた。 資料2 ・田畑がたくさんある子どもは、麦飯のお弁当を食べていた。田畑のないうちの子どもは、どんな弁当だったのだろう。 ↓ ↓ 勉強しないで、兵隊さんに送るためにサツマイモを作ったり、兵隊さんが着る毛皮にするために、たくさんのウサギを飼い、毎日、毎日えさをやっていた。食べ物が少なく、おなかがすいていた。 4. 深めの資料から、人物の思いについて考えを深める。 ・麦飯は、ぱさぱさしていておいしくない。色も黒くて食欲が出ない。でも、何も食べないよりはましだ。何も食べないと死んでしまう。 ・病気になったら大変だから、麦飯やサツマイモを食べるけど、毎日、麦飯やサツマイモは嫌だ。魚や肉をおなかいっぱい食べたい。かわいそうだ。	・小3の長沼さんの一日の暮らしの表 ・麦飯の弁当の提示 ・実際に、麦飯を食べる。(体験) ・働いておなかがすいているのに、麦飯やサツマイモすら食べられない子どもがいたことを知らせる。	【社会的な思考・判断・表現】 長沼さんの体験を通して、太平洋戦争中の子どもたちの生活について知り、戦争について考えることができる。(発言・吹き出し)
まとめる	学習したことをもとにして、課題に対するまとめを書くことができる。	5. キーワードを用いて、学習のまとめを書く。 小学生は、勉強をしないで、毎日、畑仕事や動物の世話をしていた。働いておなかがすいても、麦飯やサツマイモすら食べられない子どももいた。大人も子どもも戦争に勝つために、がまんしていた。戦争は嫌だ。	児童のまとめを発表させ、キーワードを使ってまとめられているか確かめたり、キャラクターが付け足しや質問をしたりして、より考えを深める。	毎日、学校で働く。麦飯はおいしくないけど。大人も子どももがまんした。